

ぼくのノオト

②1 新たな時代に

少子高齢化の時代、二十年後の福島県の推計人口は、現在よりも四十万人減って百四十万人になるらしい。子どもたちが年々減少する一方で、高齢者人口は増加傾向を示す。

高齢化率が県内二位の昭和村で、不思議な現象が起こった。昨年、村に転入した人が、転出者より十三人多かったのだ。村は、二階建ての喰丸小学校を修繕保存したり、伝統工芸「からむし織」の技術研修制度を推奨したりした。そして村の生活や文化に惹かれた人たちが、研修後もそのまま住み着いているそうだ。

いわき市でも、廃校となった田人二小・南大平分校の木造校舎が、その形を残し、割りばし工場として息を吹き返している。バブリーな昭和おやじの借金付き遺産を、子どもたちに丸投げするよりも、昔からそこにあったものを磨き、少しずつ手を加えて、次の世代に手渡していく。そんな時代なのかもしれない。



認定NPO法人 いわき放射能市民測定室

たらちねクリニック

院長 藤田 操